

2026年6月10日

各位

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社

2026年3月期決算説明会 質疑応答（要旨）

当社は、2026年3月期決算説明会を2026年6月3日（水）に開催いたしました。については、ここに本説明会での主な質疑応答の内容をとりまとめ、公表いたします。なお、記載内容につきましては、理解促進のために一部、加筆修正をしております。

【問1】中東情勢やウクライナ情勢の影響はどの程度あるか。

【答】中東情勢やウクライナ情勢の変化に伴い、物流コストの上昇や部材・原材料調達への影響など、グローバルなサプライチェーンへの影響を注視している。現時点で当社業績への影響は限定的だが、地政学リスクの長期化による不透明感は継続しているものと認識している。

今後、当社は引き続き供給リスクへの対応力を強化していく。

【問2】改めて、2026年3月期業績好調の要因を教えてください。

【答】装置製造事業の増収の主要因は、液晶関連分野において顧客の設備投資需要を着実に取り込めたことに加え、版事業、既存事業のメンテナンスや、光源ユニット交換などの周辺需要が堅調に推移したためである。さらに、当社グループの主力製品である配向膜印刷装置に係る大型受注案件を獲得できたことも、売上拡大に寄与したといえる。また、ランプ事業の増収の主要因は、主力製品である露光装置用光源ユニット用ランプの需要が引き続き計画を上回ったことによるものである。

利益面では、継続した効率的な経費運営等の取組強化に加え、受取補償金の計上もあったことから、前年同期比で大幅増益となった。

【問3】 今後の M&A ターゲットはどのような領域か。

【答】 当社の M&A は既存事業に近接し、技術・顧客基盤・生産機能などの面でシナジーが期待できる領域をターゲットとしている。加えて、既存事業との直接的なシナジーに限らず、中長期的な企業価値向上に資する製造業分野も対象としている。

M&A の検討にあたって、売上高規模が 20 億円以上、EV/EBITDA 倍率 6 倍以下を一つの目安として対象企業を選別している。そのうえで、キャッシュフローを重視しつつ、バランスシートを有効に活用し、収益力や資本効率の向上に資する案件を厳選しながら、継続的に検討を進めていく。

【問4】 2027 年 3 月期までの配当性向 100%方針および 2028 年 3 月期からの配当性向がどうなるのか教えてほしい。

【答】 当社は、2025 年 3 月期から 2027 年 3 月期までを「将来の成長戦略実現に向けた経営基盤強化の時期」と位置付けている。この期間においては、株主還元を重要な経営課題の一つと認識し、業績に応じた安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針のもと、連結配当配向 100%を目標としている。あわせて、資本効率の向上を図り、中長期的な企業価値向上につなげていく。

なお、2028 年 3 月期以降については、事業環境や成長投資の進捗、業績動向、財務状況等を総合的に勘案し、持続的な成長と株主還元のバランスを踏まえながら検討していく。

以上